

教科名	年間授業時数	学年
国語	156	2
授業形態	指導者名	
一斉授業	早瀬 真由美・平井 敬貴	

教科書（発行所）	中学校国語2（学校図書）・中学校書写（学校図書）
教科書以外の教材（発行所）	ウイニングPLUS中学校問題集 国語2（好学出版） 必修テキスト2（文理） 楽しく学べる文法ノート（新学社） 意味から学ぶ頻出漢字3000（第一学習社） 国語便覧（浜島書店）

目 標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	○読む 1. 仲間と共に ・言葉を吟味して文章を読み、人と言葉について考える。 2. 命の交差 ・文章の表現に即して人物の心情や人物像、また、それらの変化を読み取る。 3. 発見と行動 ・本文の主旨を理解すると共に、自分の考えを表現する方法を学ぶ。 4. 時の中で ・「言葉の力」を理解し、古典を読むことの意義を知る。 5. 状況の中で ・作品の背景を理解し、社会のあり方や人間の生き方について考える。 ○読書 ・文学的文章や説明的文章を読み、それぞれの表現の仕方について理解する。 ○言語事項（文法） ・品詞の分類、まぎらわしい品詞の識別などについて理解する。 ○書写 ・字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気をつけて書く。 ・漢字の楷書や行書とそれに調和した仮名に注意して書く。		
定期考査	出題方針	教科書・授業の内容と文法ノートの問題を中心に出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	「昔話」「逃げることは、ほんとにひきょうか」「吟味された言葉」「語を見抜く1」
		第2回考査	「サーカスの馬」「短歌」「短歌十五首」「地下水」「語を見抜く2」
		第3回考査	「クリスマスの仕事」「種をまく人」「言葉の力」「源平争乱の歴史語りー平家物語」「語を見抜く3」
		第4回考査	「若者が文化を創造する」「走れメロス」「人の世と人の心のスケッチー徒然草」「語を見抜く4」
学年末考査	「目撃者の眼」「挨拶」「アラスカとの出会い」「論語」「語を見抜く5」		
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は国語への「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○具体的な評価は、授業中での考察、スピーチ、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理する。また、各教材末に置かれている「学習」や授業中に配布されるプリントの問題を考える。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すのは当然だが、他の生徒の発言にも注意して、ノートをとる。復習としてその日のうちに再度、教科書・ノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておくこと。 なお、課題として配布している問題集は、解答の際に解説をよく読み込み、理解を深めることが大切である。		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	「おたまじゃくしたち四五匹」 「昔話」 「逃げることは、ほんとにひきょうか」	3 3 4	・分担して音読し、交流しながら作品を楽しみ味わう。 ・文末表現の特徴を捉え、その効果を考える。 ・キーワードの意味を文脈に即して捉える。	
	5	「吟味された言葉」 「話す・聞く1」 「語を見抜く1」 《第1回考査》 ◎「行書と仮名を書こう」	2 2 2 5	・主題にかかわる比喻表現の意味を考える。 ・プレゼンテーションの要点と効果的な方法について考える。 ・漢字の音と訓について理解する。	
	6	「サーカスの馬」 「短歌」 「短歌十五首」	4 1 4	・「語り手」と物語を語っている時点を理解する。 ・「僕」の心情の変化を理解する。 ・短歌の表現を支える言葉探しの作業について理解する。	
	7	「地下水」 「語を見抜く2」 「書く1」 《第2回考査》 ◎「行書と仮名を書こう」	2 2 3 5	・一首一首の短歌が、どのような心をどのように表現しているかを考えながら読む。 ・比喻に込められた意味を捉える。 ・熟字訓・湯桶読み・重箱読みについて理解する。 ・想像力を膨らませて物語や詩を書く。	
	9	「クリスマスの仕事」 「種をまく人」	3 3	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。 ・登場人物の言葉の意味やそこに込められた思いを捉える。	
	後期	10	「語を見抜く3」 「情報と表現1」 「言葉の力」 「源平争乱の歴史語り—平家物語—」 《第3回考査》 「書く2」	2 1 2 7 3	・同音異字・同訓異字について理解する。 ・編集による新しい意味や効果の生成について考える。 ・古典を読むことと「言葉の力」のかかわりについて知る。 ・解説文と共に、「平家物語」の原文を繰り返し音読することによって、語りの文体に親しむ。 ・語り手が源平争乱の時代をどのように語ろうとしているかを読み取る。
		11	「若者が文化を創造する」 「走れメロス」 「人の世と人の心のスケッチ—徒然草—」	4 6 6	・社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめる。 ・文章の展開を整理し、段落ごとの内容を押さえる。 ・表現構造について把握し、登場人物の心情の移り変わりをとらえる。
		12	「語を見抜く4」 《第4回考査》 「話す・聞く2」 ◎「行書と仮名を書こう」	2 2 5	・作者兼好と自分の見方や考え方を突き合わせて、人間の心について考えを深める。 ・熟語の構成について理解する。
		1	○百人一首 「情報と表現2」 「目撃者の眼」 「挨拶 原爆の写真によせて」 「アラスカとの出会い」	3 2 3 3 4	・ディベートの手順を知り、効果的に議論を行うための条件について考える。 ・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列等に注意して書く。 ・百人一首を通して、伝統文化を尊重する。 ・手紙とメールの特徴と使い分けについて考える。 ・写真や文章から、写真家の思いを捉える。
2		「語を見抜く5」 「論語」	2 6	・詩に託された作者の思いが表現されるように工夫して音読する。 ・出来事をつながりを読み取り、筆者の思いを捉える。	
3		《学年末考査》 「坊っちゃん」 「プロセスの建築」 「宇宙が叫ぶ—梵鐘・歓喜」	2 6 4 3 3	・特別な分野で使われる語に関心を持ち、語義を理解する。 ・繰り返し音読して、漢文訓読調になれる。 ・「論語」に見られる考え方を現代の考え方と突き合わせ、自分の生活の在り方について考える。	
通年		演習	35	「文法ノート」の解説を読み、品詞やその活用等について学習する。	
			総時間数	156	

教科名	年間授業時数	学 年
社会科	117	2
授業形態	指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業	杉山 雄泰	

教科書（発行所）	中学生の地理/地図帳（帝国書院）新しい社会歴史（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	実力練成テキスト地理（文理）地理ワーク（学宝社） 実力練成テキスト歴史（文理）歴史ワーク（学宝社） 他

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の姿，日本の姿をみるのに必要な地理的事象を理解する。また，地図，資料の活用ができる技能を身に付ける。 ・地理的な見方や考え方の基礎を培いつつ，身近な地域や都道府県，日本の諸地域などを多面的・多角的に捉える力を養う。 ・歴史的事象の学習を通して，時代を大きく捉える見方・考え方を身に付ける。また，各時代の政治のしくみ，人々の生活，文化を様々な角度から捉えられる力を養う。 ・自ら課題を設定し，自ら調べ，課題を解決していく力を身に付ける。 		
学習のねらい	<p>（地理的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球儀や地図を活用して，世界的視野からみた国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追究できる。 ・日本地図を活用して，47都道府県の位置と名称や日本の地域区分を捉えることができる。 ・日本の略地図がかけるようになる。 ・都道府県の地域調査を始めるにあたって，県を調べる際の地域調査の一般的な方法や手順を理解する。 ・市町村規模の地域や都道府県規模の地域の調査と比較しながら，国家規模の地域を調査する際の一般的な方法を獲得する。 ・わが国の地域的特色を「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の五つの面から追究し，理解する。 ・世界的視野からみた日本の地域的特色と日本全体の視野からみた諸地域の特色を考察する。 <p>（歴史的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原始，古代，中世，近世までの大きな時代の流れを捉えさせ，それぞれの時代の特色を多面的・多角的にとらえることができる力を培う。 ・各時代の歴史的事象を説明することができ，その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。 ・特に近世から近代の日本の歴史を，世界の歴史的变化と並行し，連動して捉えることができる柔軟性を養う。 ・自ら歴史的事象を選び，地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身に付ける。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容，使用している副教材の内容から出題する。資料を用いて考え，自分の言葉で表現する力を問う。	
	（予定）	第1回考査	・近世の日本① ・世界と比べてみた日本
		第2回考査	・日本の地域構成 ・近世の日本②
		第3回考査	・日本の地域的特色① ・近代日本の成立
		第4回考査	・日本の地域的特色② ・近代の日本と世界①
学年末考査	・地理的分野全般 ・近代の日本と世界②		
評価の観点・評価の方法	①社会的事象への関心・意欲・態度 ②社会的な思考・判断・表現 ③資料活用の技能 ④社会的事象についての知識・理解 上記4項目について，授業への取組（ノート・発表等），提出物，レポート，定期考査の結果で総合的に評価する。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	授業者の質問が，社会科の見方・考え方の重要なポイントになっています。積極的に答えると同時に，他の人の意見も十分に聞き，ノートに的確に記録するようにしましょう。また，資料を適切に活用できる力を身に付けるために，地図帳や資料集をしっかりと活用しましょう。		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	(ii) 日本の様々な地域 ア 日本の地域構成	10	<ul style="list-style-type: none"> 国土の位置と時差 日本の領域と日本の略地図 地域区分 (気候区と方言などを事例として) 都道府県 (都道府県の位置と県庁所在地)
	5	《第1回考査》 イ 世界と比べた日本の地域的特色	12	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境 人口 資源とエネルギーおよび産業 地域間の結び付き
	6	近世の日本① *時代の特色をとらえる学習	15	<ul style="list-style-type: none"> イスラム世界と文化 ※ここまでの世界の流れをとらえる 世界の歴史のできごとを日本の歴史のようすと対比させ、世界の中での日本が説明できるようにする。
	7	《第2回考査》	12	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ人の来航と日本への影響 江戸幕府の成立と大名統制 鎖国政策
	9	近世の日本②	18	<ul style="list-style-type: none"> 身分制度の確立と農村の様子 江戸幕府の政治の特色 元禄文化・化政文化 新しい学問や思想の動き
後期	10	《第3回考査》	12	<ul style="list-style-type: none"> 絶対王政と市民革命 欧米諸国の接近応と幕府の政治改革 産業革命 (イギリスを中心とする世界のようす) アジアの動き
	11	近代の日本と世界	9	<ul style="list-style-type: none"> 幕府政治の行き詰まり 開国から大政奉還まで ※18世紀から19世紀の世界の流れと日本の動きを説明できるようにする。 五箇条の御誓文
	12	《第4回考査》	10	<ul style="list-style-type: none"> 四民平等 地租改正 富国強兵と殖産興業 文明開化
	1	ウ 日本の諸地域	9	<ul style="list-style-type: none"> 九州・中国・四国・近畿・中部・関東 東北・北海道 ※地域的特色ある地理的事象と事柄を他の事象と結びつけて追求する。
後期	2	エ 身近な地域の調査 《学年末考査》	10	<ul style="list-style-type: none"> 地形図・野外観察 課題設定(地域の情報収集) 調査・地域の課題を考察 まとめと発表
	3	適切な課題を設定する学習		
総時間数			117	

教科名		年間授業時数	学年
数学		156	2
授業形態		指導者名	
習熟度別による少人数授業		白神宏明, 板野正幸	

教科書(発行所)	新しい数学2 (東京書籍)		
教科書以外の教材(発行所)	体系数学2代数編	(数研出版)	
	体系数学1幾何編	(数研出版)	
	体系問題集数学2代数編	発展	完成ノート (数研出版)
	体系問題集数学1幾何編	発展	完成ノート (数研出版)

目標	<p>数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。</p>		
学習のねらい	<p>1 「数と式」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字を用いた多項式について、式の展開や因数分解ができるようにするとともに目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりする能力を伸ばす。 正の数の平方根について理解し、それを用いて表現し考察することができるようにする。 2次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。 <p>2 「図形」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見いだして理解し、それを用いて考察することができるようにする。 図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 <p>3 「関数」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数 $y = ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。 <p>4 「資料の活用」領域</p> <ul style="list-style-type: none"> 不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解しそれを用いて考察し表現することができるようにする。 母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解できるようにする。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出題する。	
	(予定)	第1回考査	式の計算
		第2回考査	平方根, 2次方程式
		第3回考査	関数 $y = ax^2$, 確率と標本調査(前半)
		第4回考査	確率と標本調査(後半), 図形と合同
年度末考査	三角形と四角形		
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量, 図形などについて知識・理解」の4項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査を中心に、授業への取り組み、小テスト、提出物の状況等から総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法, 授業の受け方, ノートの取り方など)	<p>予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間、放課後等を利用して質問にくることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。ノートについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいノートとなるように工夫してみましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	多項式の計算	6	<ul style="list-style-type: none"> 多項式と単項式の乗除ができ、また、乗法公式を用いて式の展開ができるようにする。 乗法公式を用いて式の因数分解ができるようにする。 式の展開や因数分解を利用して、問題を解決することができるようにする。 数の素因数分解ができるようにする。 	
	5	因数分解 式の計算の利用 素因数分解 章末問題	5 3 2 4		
	《第1回考査》				
	6	平方根 根号を含む式の計算 有理数と無理数 章末問題	4 7 2 4		<ul style="list-style-type: none"> 数の平方根の意味を理解し、その大小や近似値を求めることができるようにする。 根号を含む式の計算や変形ができるようにする。 有理数、無理数について理解し、数の概念をひろめることができるようにする。 2次方程式とその解の意味を理解し、平方根の考え、解の公式、因数分解などを利用して2次方程式を解くことができるようにする。 2次方程式を利用して、問題を解決することができるようにする。
	7	2次方程式の解き方 2次方程式の応用 章末問題	7 4 4		
	《第2回考査》				
	8	関数 $y = ax^2$ 関数 $y = ax^2$ のグラフ 関数 $y = ax^2$ の値の変化 関数 $y = ax^2$ の応用	2 5 3 4		
	9	いろいろな関数 章末問題	3 5	<ul style="list-style-type: none"> 関数 $y = ax^2$ のとる値の変化の割合を調べ、1次関数との違いを明らかにすることができるようにする。 関数 $y = ax^2$ を利用して、問題を解決することができるようにする。 	
	後期	10	場合の数 確率の計算	5 6	<ul style="list-style-type: none"> ある事象について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができるようにする。 確率の意味を理解し、計算によって確率を求めることができるようにする。
《第3回考査》					
		標本調査 章末問題	5 4	<ul style="list-style-type: none"> 標本調査について理解し、活用できるようにする。 	
11		平行線と角 多角形の内角と外角 三角形の合同条件 証明のすすめ方 章末問題	2 5 5 5 4	<ul style="list-style-type: none"> 対頂角の性質、平行線と角の関係について理解し、それらを利用して問題を解決することができるようにする。 三角形の内角と外角をもとに多角形の角について理解し、問題の解決に利用することができるようにする。 合同な図形の性質、三角形の合同条件などを明らかにし、三角形の合同を根拠とした証明を行うことができるようにする。 	
《第4回考査》					
1		二等辺三角形 直角三角形の合同 三角形の辺と角の大小 平行四辺形	5 3 3 6	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の合同条件を使って、二等辺三角形の性質を証明し、図形の性質を理解することができるようにする。 直角三角形の合同条件を明らかにし、直角三角形の合同を根拠とした証明を行うことができるようにする。 三角形の辺と角の大小について理解し、それらを利用して問題を解決することができるようにする。 平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件、他の四角形の性質、平行線による等積変形などについて理解し、それらを利用して問題を解決することができるようにする。 	
2		平行線と面積 章末問題	3 4		
《年度末考査》					
		3	2年生のまとめ	17	
総時間数			156		

教科名		年間授業時数	学年
理科		156	2
授業形態		指導者名	
一斉授業		橋田 千寿	

教科書(発行所)	未来へひろがるサイエンス 2 (啓林館)
教科書以外の教材(発行所)	中学実力練成テキスト 2年,3年 理科資料集

目 標	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。		
学習のねらい	<p>[生命] 生物の体は細胞から成り立つことを理解させ、それを土台に動物の体のつくりとはたらき、その種類と生活についての知識を深めるとともに、進化についての学習で、生命の精妙さについて実感させることがねらいである。また、この中で生命尊重の態度も育てたい。</p> <p>[地球] 身近な気象に進んでかかわり、空気中の水の凝結に関する実験や、気象観測などを雲画像などを活用して分析・解釈することを通じて、天気の変化が起こるしくみと規則性をともに、日本の四季の天気変化についても、その特徴を科学的に理解させる。</p> <p>[物質] 化学変化における物質の変化や量的な関係を、実験を通して探究させるとともに、それらの現象を原子・分子のモデルを用いて微視的に考えることができるようにさせる。また、多様な実験操作を経験させるよい機会であるので、安全かつ正確に化学実験を行う技能を身につけさせる。</p> <p>[エネルギー] 日常生活との関連をはかりながら、電流と回路や静電気、電流の磁気作用などの実験を通して、電流の性質や正体、電流のはたらきについて理解させる。</p>		
期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	「生命」動物のくらしとなかまと生物の変遷 (問題集, 実験・観察)
		第2回考査	「物質」化学変化と原子と分子 (問題集, 実験・観察)
		第3回考査	「地球」地球の大気と天気の変化 (問題集, 実験・観察)
		第4回考査	「エネルギー」電流の性質とその利用 (問題集, 実験・観察)
学年末考査	「エネルギー」電流の性質とその利用 「生命」生命の連続性 (問題集, 実験・観察)		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、自然事象への関心・意欲・態度、科学的な思考・表現、観察・実験の技能、科自然事象についての4項目とする。</p> <p>○評価の方法は、定期考査を中心とし、授業への取り組みのようす、ノート、課題の提出などをもとに、総合的に行う。また、実験など自己評価も必要に応じて取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>理科の学習は、自然の現象について学んでいく学問です。日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。</p> <p>また、実験・観察を通して得られたことを図やグラフを書いて事実合うように考察し発表する態度を身につけることも大切です。</p>		

年間授業計画表

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	「生命」動物の生活と生物の進化 生物とは何だろう 動物とはどのような生物だろう 1章 生物の体と細胞 (1年次に既習)	(4 2) 1	○消化や呼吸, 血液の循環についての観察・実験を行い, 動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけてとらえさせる。また, 不要となった物質を排出するしくみがあることを理解させる。	
	5	※細胞のつくりとはたらき 2章 生命を維持するはたらき ※酵素のはたらき	1 2 1 0	○動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い, そのしくみを感覚器官, 神経および運動器官のつくりと関連づけてとらえさせる。	
	6	3章 感覚と運動のしくみ 4章 動物のなかま 5章 生物の移り変わりと進化 力だめし	1 2 6 1	○脊椎動物の観察記録に基づいて, 体のつくりや子の生まれ方などの特徴を比較, 整理し, 脊椎動物がいくつかの仲間に分類できることを見いださせる。また, 無脊椎動物などの観察を行い, その観察記録に基づいて, それらの動物の特徴を見いださせる。 さらに, 現存の生物および化石の比較などをもとに, 現存の生物は過去の生物が変化して生じてきたものであることを体のつくりと関連づけてとらえさせる。	
	7	「物質」化学変化と原子・分子 銅をつくる粒子	(3 6) 1	○物質を分解する実験を行い, 分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いださせる。また, 物質は原子や分子からできていることを理解させ, 原子は記号で表されることを知らせる。さらに, 化学変化は原子や分子のモデルで説明できること, 化合物の組成は化学式で表されることを理解させる。	
	8	1章 物質の成り立ち	1 1	○2種類の物質を化合させる実験を行い, 反応前とは異なる物質が生成することを見いださせる。さまざまな化学変化を原子や分子のモデルを用いて説明できること, 化学反応式で表すことができることを理解させる。	
	9	2章 物質を表す記号 3章 さまざまな化学変化 4章 化学変化と物質の質量 力だめし	5 1 1 7	○化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い, 化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと, および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いださせる。	
	10	※物質の結合	1		
	後期	11	「地球」地球の大気と天気の変化 ダイナミックな霧「朧川あらし」 1章 空気中の水の変化 2章 天気の変化と大気の動き 3章 大気の動きと日本の四季 力だめし	(2 9) 1 9 1 1 7 1	○地球上の水はさまざまな状態で存在し, 霧, 雲, 雨や雪はその循環の一部であることを認識させるとともに, 空気中の水の変化について理解させる。 ○大気の動きを立体的に捉えさせたり, 大気の状態を観測させたりして, 天気との関係を見いださせる。また, 日本周辺にできる気団や日本付近の大気の動き方の規則性と関連づけながら天気の変化を捉えさせる。
		12			○地球の表層で生じる地球規模の大気の動きが緯度による温度差と関係して起こる自然現象であることを理解させ, その一部としての偏西風を認識させる。また, 大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが, 日本の気象に影響を与えることを理解させる。さらに, 日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら, 日本の四季の天気の特徴とそれが生じるしくみを理解させる。
		1	「エネルギー」電流の性質とその利用 電気の道すじ～送電線～	(4 3) 1	○回路の基本的な性質や, 電圧と電流との関係について規則性を見いださせるとともに, 実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得させる。
2		1章 電流の性質 2章 電流の正体 3章 電流と磁界 力だめし	2 0 9 1 2 1	○日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べさせ, 静電気と電流には関係があることを見いださせ, 真空放電の実験から, 電流の正体について理解させる。	
3		※キルヒホッフの法則 □静電誘導と誘導誘導分極	1	○日常生活と関連づけながら, 電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させ, 直流と交流の違いをとらえさせる。	
		「生命」生命の連続性 つながる生命 1章 生物の成長 ※体細胞分裂と数分裂のしくみ ※遺伝 ※印は高等学校の内容を含む	(6) 2 2 2	○卵細胞と精子, 5種類の動物の親子, 染色体の顕微鏡写真をもとに, 親から子への生命のつながりが広く生物界で起こっており, 今, わたしたちがいることはどういふことかを改めて思い起こさせ, 生命はつながっているということへの関心を高めさせる。 ○細胞のつくりを思い起こさせ, 種子から根ののびる様子を観察させたり, 細胞分裂の観察を行わせて, 生物の成長を細胞の分裂と関連づけてとらえさせる。 ○身近な生物のふえ方を観察させて, 無性生殖と有性生殖の特徴を見いださせるとともに, 生物がふえていくとき染色体にある遺伝子を介して親から子へ形質が伝わること, そしてその伝わり方に規則性があることを理解させる。	
			156		

教科名		年間授業時数	学年
音楽		39	2
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		小林 智子	

教科書（発行所）	中学生の音楽2・3上 中学生の器楽	(教育芸術社) (教育芸術社)
教科書以外の教材（発行所）	音楽ノート 愛唱歌集	(岡山県中学校教育研究会) (岡山県中学校教育研究会)

目標	音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。		
学習のねらい	<p>1 歌唱 曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。 曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌う。</p> <p>2 器楽 楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫し表現する。 全体の響きに調和させて演奏する。</p> <p>3 創作 楽器の特徴を生かした旋律を作り、表現する。 表現したいイメージや曲想を持ち、自由な発想による創作表現をする。</p> <p>4 鑑賞 音と音との関わり合いや、速度や強弱の働きによって生み出される曲想の変化を感じ取る。 音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術との関わりも理解し聴く。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽ノート、プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	夢の世界を、翼をください、夏の思い出、アカペラ、リコーダーの奏法・運指、
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
学年末考査	荒城の月、リコーダーの運指、フーガ ト短調、日本音楽、アイーダ		
評価の観点・評価の方法	<p>○評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、音楽的な感受や表現の工夫、表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。</p> <p>○具体的な評価は、授業への取り組み、ノート、授業プリントの提出状況、歌のテスト、リコーダーのテストなどを総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の世界は、範囲も種類も広く、日常親しんでいる音楽も多岐にわたって様々です。いろいろな種類の、いろいろな様式の音楽に興味、関心をもち、知識・技能などを意欲的に学んでいきましょう。 ・歌唱、器楽及び創作の活動を、単に楽譜上の記号を音に変換する行為にしまわせず、歌ったり、演奏したりすることが、自分の生活の中での驚き、発見、喜び等を思い起こすものになるように積極的に活動していきましょう。 ・基礎、基本を身に付け、個々の目標や課題を見つけて楽しく音楽にかかわっていきましょう。 ・毎時間忘れものをせず、提出物（ノート、プリント）を必ず出すようにしてください。 		

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	曲想の変化の理解と表現の工夫 夢の世界を	4	ユニゾン、主旋律、副旋律などの役割を生かし、表現を工夫する。
	5	声部の重なり方の理解と表現の工夫 翼をください 言葉と旋律との関係を理解し表現の工夫 夏の思い出	4	曲の構成と音の重なり方を理解して表現を工夫する。 歌詞の内容や、構成を理解し、曲の雰囲気にあった強弱の変化などを感じ取り、表現を工夫する。
	6	アカペラの魅力 Kum Ba Yah	4	いろいろな歌声の特徴を知覚し、その違いを感じ取る。 声だけで美しいハーモニーを表現する。
	7	言葉によるリズムアンサンブル おうまがとおる	4	リズムの反復、変化、重なり方のおもしろさを味わう。
	8	《第2回考査》		
	3	5 リコーダーに親しもう *この題材は練習曲を継続して行う		アルトリコーダーの基本的な奏法を身につけ正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
	9	歌詞の内容と旋律の抑揚 荒城の月	4	一つ一つの言葉の響きや日本語の発音の違いを意識しながら表情豊かに歌う。
後期	10	多声的な重なりで構成された音楽のおもしろさ フーガ ト短調	4	パイプオルガンの響きを味わい、旋律と旋律がからみ合う「フーガ」を理解して聴く。
	11	舞台芸術と音楽 アイーダ	4	独唱・重唱・合奏のそれぞれの特徴やオーケストラとの調和の効果を感じ取る。 場面の雰囲気と音楽との関係を感じ取る。
	12	日本音楽 文楽 歌舞伎	4	日本の伝統音楽の特徴を感じ取る。 歌い方や語り方、三味線の音色や、長唄、義太夫節の特徴を理解し、貴重な文化として尊重する。
	1	郷土芸能の中に息づく音楽 日本の郷土芸能	3	日本の郷土芸能に親しみ、その音楽の特徴を味わう。
	2 3	歌唱 卒業式に向けて 《学年末考査》	4	歌詞のメッセージを読み取り、全体の響きに調和させて合唱する。
総時間数			39	

教科名		年間授業時数	学年
美術		39	2
授業形態		指導者名	
一斉授業		中村 文香	

教科書（発行所）	美術Ⅱ・Ⅲ上下 学びの深まり（日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目 標	描く活動を中心とし、形や色をさらに追求することで、形や色彩の特徴や美しさ、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力をたかめる。 また鑑賞の能力を高め、美術文化についての理解を深めるとともに、個性豊かな美術の能力を高める。		
学習のねらい	<p>1 絵画・彫刻などの活動を通して 対象を深く見つめ、観察し、想像や感情など心の世界をスケッチしたり、形づくることを学ぶ。また、形や色彩、光などがもたらす性質や感情を取り入れた絵画表現を行う。</p> <p>2 デザイン・工芸などの活動を通して デザインの効果を考え、材料の構成を簡潔にしたり総合化したり、創意工夫することでより高い完成度を目指すことができる。また表現したい内容を漫画、イラストレーショ等を使うことで見え方、感じ方を広げ深める力を育てる。</p> <p>3 鑑賞 日本及び諸外国の美術遺産を鑑賞し、その特質や文化や伝統などについての理解や見方を広げ、美術を通じた国際理解を深める。</p>		
定期考査	出題方針	教科書を中心に、美術資料、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	デッサン、水墨画（予定）
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
学年末考査		遠近法、ピクトグラム、配色、鑑賞問題（予定）	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力の4項目とする。</p> <p>○準備物や意欲的な態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・仲間との協力・教室での会話など、制作過程での観点別達成度、作品の完成度の判定、単元後の感想文による鑑賞能力判定の3つのポイントを統合して評価する。</p> <p>○作品に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノート の取り方など)	<p>「芸術とは、樹海に地図もコンパスも持たずに入るようなものである」とある美術家は言い、また別の美術家は「作品をこなしていると、一時全てを理解できたような感覚になるが、それはあくまで雛が卵の中を世界の全てと同じで、殻を破れば無限につづく世界がそこにはある」と言います。美術には正解が存在しません。迷路に迷わないためには感覚とセンスと追求心が大切です。その中でも追求心は大きな割合を占めています。</p> <p>美術は技術を上げるためだけにあるではありません。2年生は「心」を使う課題が多くあります。なにもない白いところから自分独自のものを創造する力は今後においても大切な能力です。</p> <p>さあ、扉を開きましょう。そこにはきっと別の世界が広がっているはずです</p>		

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「光と陰影の効果をとらえて」(絵画) ・身近なものを観察し、光と陰影の効果をとらえながら鉛筆デッサンをする。	7	・鉛筆による陰影の表現の仕方や、物の形のとらえ方を学び、描画材の特性を工夫して表す。
	5			
	6	「墨が生み出す豊かな世界」(絵画) ・水の量や筆の動かし方などを試し、基本的な水墨	6	・墨に親しみながら、自然や身の回りの様子などから発想し、表したい主題を生み出す。
	7	画の技法を練習し、作品を制作する。 《第二回考査》		・構図や技法を意識しながら、墨の特性を生かし、自分の意図に合う表現を工夫して制作する。
	8			
	9	「色について理解を深めよう」(デザイン) ・配色、主調色、強調色などについて学ぶ。	2	・色の組み合わせ、配置、面積によって、感じ方が変化することに気づき、色の働きを感じ取る。
		「情報をわかりやすく伝えよう」(デザイン) ・日常生活で使われているマークやピクトグラムの役割や意味、デザインなどについて学ぶ。	9	・身近なマークなどのデザインに目をむけ、日常生活におけるデザインの役割と大切さを知る。
	10	・生活を便利にするピクトグラムをデザインする。		・形や色の特徴を生かし、伝えたい内容を多くの人に伝えることを考えて構想する。
	11			
後期	12	「理想の空間デザイン」(デザイン) ・自分にとって理想の空間を、遠近法を用いて表現する。	7	・日本と西洋の空間表現の違いを知り、それぞれの良さや特性を理解する。 ・遠近法の作図の仕方を理解し、表したい空間を遠近法を使って表現する。
	1			
	2	「季節を感じる和菓子をつくろう」(工芸) ・日本の豊かな自然、四季の変化などを感じ取りながら自分らしい和菓子のデザインを考え、粘土などを	8	・日本特有の美意識や季節感を感じ取るとともに、和菓子としての目的や機能を考えて構想を練る。
	3	を用いてイメージを形にする。 《学年末考査》		・生活に息づく自然の美しさや季節感などからイメージを広げ、粘土の特性を生かして表現する。
		総時間数	39	

教科名		年間授業時数	学年
保健体育		保健 17 時間 体育 100 時間 計 117 時間	中 2
授業形態		指導者名	
2 クラス合同・1 クラス単独・3 学年合同（縦割り）		鈴木 浩司・内藤 貴子	

教科書（発行所）	中学校保健体育（大修館）
教科書以外の教材（発行所）	体育実技書（学研）

目 標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てると共に健康の保持増進の為の実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
学習のねらい	<p>《体育分野》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・体づくり運動 自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する <ol style="list-style-type: none"> ① 自己の体に気付く ② 自己の体の調子を整える ③ 仲間と交流する 2・器械運動 自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう 3・陸上競技 速く走る・遠くへ（高く）跳ぶ・遠くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう 4・球技 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう 5・武道 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする 6・ダンス 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする 7・体育に関する知識 各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する 体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する <p>《保健分野》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・心身の発達と心の健康 心身の発達と心の健康について理解できるようにする <ol style="list-style-type: none"> ア・身体の機能は年齢と共に発達すること イ・思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成

熟すること
 ウ・知的機能・情意機能・社会性など精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされていること
 エ・心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処するとともに心身の調和を保つことが大切であること。また、欲求やストレスへの対処の仕方に応じて、精神的・身体的に様々な影響が生じることがあること

<p style="text-align: center;">定期考査</p>	<p>出題方針</p>	<p>教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する</p>	
	<p style="text-align: center;">範囲 (予定)</p>	<p>第1回考査</p>	<p>なし</p>
		<p>第2回考査</p>	<p>体づくり運動・陸上競技・球技・保健等</p>
		<p>第3回考査</p>	<p>なし</p>
		<p>第4回考査</p>	<p>なし</p>
		<p>学年末考査</p>	<p>保健・球技・武道・陸上競技等</p>
<p>評価の観点・ 評価の方法</p>	<p>《体育分野》 ・評価の観点は、体育への関心・意欲・態度、自分やチームの能力に応じた課題を設定して努力しているかという思考・判断、実践している運動種目に応じた技能を身につけているかという運動の技能、実践している種目の特性に応じ効果的な練習の仕方・ルール・審判法・競技会の企画・運営の仕方を理解し、知識を身につけているか ・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に観点別に評価していく ・毎時間が評価の対象であり、学期に数回の技能テストも行う</p> <p>《保健分野》 ・評価の観点は、保健への関心・意欲・態度、身体や精神発達について自分自身で理解しようとしているかという思考・判断、心身の発達や心の健康について理解し、知識を身につけているか ・評価の方法は、定期考査、ノート提出、レポート提出、出席状況に等により総合的に観点別に評価していく</p>		
<p>先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)</p>	<p>《体育分野》 ・事前に授業内容を聞きに来る ・更衣を早くし、授業には遅刻しない ・自己健康管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る ・忘れ物をしない</p> <p>《保健分野》 ・提出物は必ず出す レポート・ノート等の点数の配点は大きいので気をつける ・忘れ物をしない</p>		

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前	4	・体づくり運動（体ほぐしの運動）	3	・自己の体に気付き、仲間と交流する	
	5	・ダンス（フォークダンス）	4	・互いに協力しながら練習を行う。上級生と下級生の交流を深める	
	6	・体づくり運動（体力を高める運動） ・陸上競技（短距離走・走り幅跳び）	6 1 4	・互いに協力しながら、体力を高める ・安全に留意し、基本技術を習得する ・お互い協力しながら、手際よく測定できるようにする	
	7	・球技（ハンドボール） （卓球）	8	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習・ゲームを行う	
		《第2回考査》			
	期	8	・球技（バレーボール）	1 5	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習・ゲームを行う
		9	武道（剣道）	1 5	・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。また、チーム内での役割分担を行う ・安全に留意し、基本技術を習得する
		・健康と環境 ・傷害の防止	9 8	・生活の中での生かし方を理解する ・生活の中での生かし方を理解する	
後	10				
	11	・武道（剣道）	1 5	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う	
	12	・球技（バレーボール）	1 5	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習・ゲームを行う ・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。また、チーム内での役割分担を行う	
		・体育理論	4	・運動について理解を深める	
	期	1	・陸上競技（長距離走）	1 5	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを大きな目標とする
2		・球技（ソフトボール：男子） （バレーボール：女子）	1 6	・生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようにする ・安全に留意し、お互い協力しながら、練習・ゲームを行う ・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。また、チーム内での役割分担を行う	
3		《学年末考査》			
		総時間数	117	体育 100時間 保健 17時間	

教科名		年間授業時数	学年
技術・家庭科（技術分野）		39	2
授業形態		指導者名	
一斉授業		宮木 秀樹	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目 標	生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。		
学習のねらい	<p>C 生物育成に関する技術</p> <p>(1) 生物の生育環境と育成技術について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知ること。</p> <p>イ 生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考えること。</p> <p>(2) 生物育成に関する技術を利用した栽培について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培ができること。</p> <p>D 情報に関する技術</p> <p>(1) 情報通信ネットワークと情報モラルについて、次の事項を指導する。</p> <p>ア コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知ること。</p> <p>イ 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを知ること。</p> <p>ウ 著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考えること。</p> <p>エ 情報に関する技術の適切な評価・活用について考えること。</p> <p>(2) デジタル作品の設計・制作について、次の事項を指導する。</p> <p>ア メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計ができること。</p> <p>イ 多様なメディアを複合し、表現や発信ができること。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、ノート、授業内容、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	情報に関する技術 マルチメディアの活用、デジタル化の方法 生物育成に関する技術
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
学年末考査	生物育成に関する技術 栽培計画、作物の生育、作物の育つ条件、作物の日常管理、環境に優しい栽培法 情報に関する技術 情報とわたしたちの生活、コンピュータと情報処理、情報通信ネットワークの利用、ネットワークと情報セキュリティ		
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、「生活や技術への関心・意欲・態度」、「生活を工夫し創造する能力」、「生活の技能」、「生活や技術に関する知識・理解」の4項目である。</p> <p>○具体的な評価は、定期考査、授業中での作品、「技術とわたしたちの生活 1 技術」、「情報とわたしたちの生活 2 情報」、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、生物育成やコンピュータの活用に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、生物育成や情報に関する学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につける学習です。</p> <p>技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身につけることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにいかされる技術的素養を身につけましょう。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント		
前	4	○わたしたちの生活と生物育成 生物育成について知る。 作物や家畜などの特性と生物育成技術を知る。 生物育成のサイクルを知る。	3	<ul style="list-style-type: none"> 生物育成の意味とその目的、わたしたちの生活における役割を知る。 育成生物の特性が生物育成技術と深くかかわっていることを知る。 		
	5	栽培計画 ・栽培ごよみを知る。 ・栽培計画を立てる。 ・たねまき、育苗について知る。	2	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの生活に有効利用されている生物育成技術の流れを知る。 作物と地域による栽培時間のちがいを知り、栽培に見通しをもつ。 		
			1	<ul style="list-style-type: none"> 栽培する作物の計画をまとめ、見通しを確かにする。 		
			2	<ul style="list-style-type: none"> 植え替えを行い、生物の栽培について知る。 作物の育成に適切な手入れのしかたを理解し、適切な管理ができる。 		
	期	7	植え替えをする ・環境要因を知る。 ・育成の規則性と技術 ・土づくり、肥料について知る。	2	<ul style="list-style-type: none"> 生物の育成に適する条件を理解する。 作物の特性と育成の規則性を理解する。 	
				1	<ul style="list-style-type: none"> 栽培に適した土の条件やたい肥について理解し、目的の場所に応じた土づくり、施肥ができる。 	
				1	<ul style="list-style-type: none"> 栽培に合った土の条件やたい肥について理解し、目的の場所に応じた土づくり、施肥ができる。 	
				4	<ul style="list-style-type: none"> 作物の収穫と利用方法を理解できる。 	
	後	10	○情報に関する技術 情報機器の変遷とその仕組み デジタル作品の設計と製作 ・生活の中のメディアを知る。 ・デジタル作品の構想を知る。	2	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにおける情報に関する技術を知る。 情報機器の変遷とその仕組みについて知る。 	
		11	・デジタルデータを収集する。 ・情報の収集と加工を知る。	2	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で利用されている情報の表現手段や特徴を知る。 	
2						
1		・デジタル作品を作成する。	8	<ul style="list-style-type: none"> マルチメディアを利用した製作の手順を知らせる。 メディアの特徴を活用し、目的や条件を考えて、デジタル作品を設計する。 デジタルカメラの操作方法を知らせる。 デジタルの特徴と情報の保存方法を知らせる。 		
			2	情報とわたしたちの生活(情報) ・情報社会の技術を見てみよう ・情報の技術とその役割	4	<ul style="list-style-type: none"> コンピュータを利用した情報の技術の利用例やはたらきを知る。 コンピュータを構成する要素の種類や役割を知る。 コンピュータが情報を処理するしくみを知る。 デジタル化の方法、情報の量の表し方と保存方法を知る。
					2	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの種類と構成を知り、情報を伝えるしくみを知る。
			3	コンピュータと情報処理 ・コンピュータの構成、情報を処理するしくみ ・デジタル化の方法と情報の量 情報通信ネットワークの利用 ・ネットワークの構成と情報を伝えるしくみ ネットワークと情報セキュリティ ・ネットワークの安全性とセキュリティ	2	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの種類と構成を知り、情報を伝えるしくみを知る。
2		<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの危険性、安全に情報を利用するしくみを知る。 				
2		<ul style="list-style-type: none"> 情報を扱うルールや相手の立場に立った情報発信のモラルを知る。 人権や個人情報を保護するためのルールを知る。 知的財産を保護する利用のしかたを知る。 				
			情報モラルと知的財産 ・発信するときのモラル ・人権や個人情報の保護 ・知的財産の保護	《学年末考査》		
		総時間数	39			

教科名	年間授業時数	学年
技術・家庭科（家庭分野）	39	2
授業形態	指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業	青山ゆか	

教科書（発行所）	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野（開隆堂）

目 標	実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。		
学 習 の ね ら い	<p>C 衣生活・住生活と自立</p> <p>(1) 衣服の選択と手入れについて</p> <p>ア 衣服と社会の生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。</p> <p>イ 衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができること。</p> <p>ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること。</p> <p>(2) 住居の機能と住まい方について</p> <p>ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能にて知ること。</p> <p>イ 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること。</p> <p>(3) 衣生活、住生活などの生活の工夫について</p> <p>ア 布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができること。</p> <p>イ 衣服又は住まいに関心を持ち、課題をもって衣生活又は住生活について工夫し、計画を立てて実践できること。</p> <p>D 身近な消費生活と環境</p> <p>(1) 家庭生活と消費について</p> <p>ア 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。</p> <p>イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。</p> <p>(2) 家庭生活と環境について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。</p>		
定 期 考 査	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリント、ワークシートからも出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	自分らしく着る・快適に着る
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
学年末考査		快適に住まう、身近な消費生活	
評価の観点・ 評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は家庭科への「関心・意欲・態度」「工夫・創造」「技能」「知識・理解」の4点とする。 ・考査、発表、学習態度、課題の提出状況などから総合的に評価する。 		
先生からのアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート のとり方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をしない。 ・人の話を集中して聞く。 ・時間を守る。 ・課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。 		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	○日常着の活用 ①衣服のはたらき ②自分らしく目的に合わせた着方	1 2	・衣服の社会生活上のはたらきについて知る。 ・自分らしい着方を考える。 ・和服と洋服の構成の違いや着方について気づく。	
	5	③衣服の活用と選び方 ○日常着の手入れ ①汚れと手入れ	2 1	・既製服を選ぶポイント、サイズや取り扱い絵表示の見方を理解し、衣服の適切な選択ができる。 ・衣服につく汚れやしみの種類と性質を理解して、手入れや保管の仕方を知る。	
	6	②③④手入れと表示 ○環境に配慮した衣生活 <第2回考査>	2 2	・取り扱い絵表示を参考にして、素材にあった手入れや洗濯の仕方がわかる。 ・環境に配慮した洗濯の方法を工夫することができる。	
	7	○わたしや家族の生活を豊かにする工夫 ①製作前に知っておこう	1 2	・ブックカバーの製作計画を自分のなりの工夫を取り入れて立てることができる。 ・製作に必要な用具の使い方(ミシンは、上糸と下糸を適切にかけ、縫えるようにする)を知る。	
	8	②製作して活用しよう	6	・各部位において適切な縫い方が分かり、縫い目をそろえて縫うことができる。	
	9				
	後期	10	○住まいのはたらき ①住まいのさまざまな役割 ②共に住まう	1 1	・住まいの基本的な役割を理解し、住まいに必要な空間とその役割がわかる。 ・家族によって住まい方が違うことがわかる。
		11	○安全な住まい ①住まいの安全対策 ②災害への備え	2 1	・家庭内の事故の種類とその原因がわかる。 ・家族の安全を考えた住まい方を工夫する。 ・非常時への備えとして、安全な住まい方を具体的に工夫する。
			○快適な住まい ①室内の空気調節 ②住まいと音	1 1	・室内の空気が汚れる原因を知り、健康に配慮した住まい方を考える。 ・生活騒音の種類と問題点を理解し、適切な防音対策を考える。
12		○生活の課題と実践 ①課題の決定と実践計画の立案 (実践は、冬休みの課題) ②実践結果の発表	2 2	・自分の生活を見つめ直し、課題決定と探究方法を考える。 ・自分の実践をわかりやすく発表したり、友達の発表を自分の生活改善の参考にしたりすることができる。	
1		○家庭生活と消費 生活に必要なものの流れ ○商品の選択と購入 ①商品購入のプロセス ②生活情報の活用 ③商品の価格 ④販売方法と支払い方法	1 1 1 1	・生活を支えている物資やサービスは誰がつくり提供しているのかや、購入のプロセスを理解する。 ・自分の消費行動に関心を持ち、表示やマークが商品の選択・購入に役立つこと理解する。 ・契約の意味と、商品の販売方法と支払い方法を理解する。	
2		○よりよい消費生活のために ①消費者生活のトラブルを防ごう ②消費者の権利と責任 ③消費者を支える仕組み <学年末考査>	1 1	・消費者トラブルについて理解し、解決方法がわかる。 ・消費にかかわる機関や法律、制度を知る。	
3		○環境に配慮した生活 <学年末考査>	4	・消費生活と環境とのかかわりについて関心を持ち、持続可能な社会に向けて環境に配慮した生活を実践できる。	
			総時間数	39	

教科名		年間授業時数	学年
英語（英語・英語C）		156	2
授業形態	指導者名		
習熟度別による少人数授業および一斉授業	森安鋭子, 坂本留美子, 石丸加奈恵, 谷口晃子, Mahalaksme GOVENDER		

教科書（発行所）	NEW HORIZON English Course2（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	<ul style="list-style-type: none"> ・実力練成テキスト2（文理） ・中高一貫テキストNEW TREASURE Stage1・2（Z会出版） ・NEW TREASURE 文法問題集 1・2（Z会出版） ・クラウンチャンクで英単語（三省堂） ・Listening Trial 1（文英堂）

目標	外国語（英語）を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をバランスよく養い、実践的コミュニケーション能力を身につける。		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の4領域（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）をバランスよく学習する。 ・200語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 ・質問・応答・交渉・言い換え・論理的な自己表現などができる。 ・300語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 ・基本的な文法・語いを使って、200語程度のまとまった英語を書くことができる。 		
定期考査	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASURE の内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材、問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehension は必ず行う方針である。	
	範囲 (予定)	第1回考査	中高一貫テキストStage1 Lesson 11 検定教科書内容
		第2回考査	中高一貫テキストStage 1 Lesson12~13 検定教科書内容
		第3回考査	中高一貫テキストStage1 Lesson14 / Stage2 Lesson1 検定教科書内容
		第4回考査	中高一貫テキストStage2 Lesson2, 3 検定教科書内容
学年末考査		中高一貫テキストStage2 Lesson 4,5 検定教科書内容	
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、言語や文化についての知識・理解の4項目とする。</p> <p>具体的な評価は、定期考査を中心に、授業ファイルの作成と提出、小テスト、その他の提出物を含む課題、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。</p>		

先生からアドバイス
(予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)

中学2年生では、習熟度別（希望による）少人数授業を展開します。標準コースではこれまでの学習と同様に、基礎・基本の定着を目指した演習や言語活動などを通して学習を進めていきます。発展コースではより細かな文法指導やその文法を駆使した様々な発展的な言語活動などを通して、言語使用場面に合わせて学習したことを実践的なものにまで高めていきます。

どちらのコースにも共通して大切なことは、□予習□授業□復習のサイクルを確立することです。家庭学習には1時間以上はかけ、授業に集中して取り組むことが大切です。まず、□予習では、単語調べ、本文の内容理解をできる範囲でやってみましょう。予習の段階で疑問に思ったことは、授業で確認し、それでも不明な点は授業後に先生に確認しましょう。ファイルには赤で直しを入れましょう。□授業では言語活動をしているときは音を大切にしっかりと発音することです。五感をフル活用しましょう。また、積極的な挙手を期待します。一方、書く練習やまとめの作業では静かに書くことで整理します。活動の1つ1つにねらいを持ち、けじめをつけて学習しましょう。また、ペアなどによる学び合いの姿勢も大切にし、お互いに高め合っていきましょう。その日学習したことは□必ず復習します。CDを聞いたり、音読したり、書く練習をするなどの努力を欠かさず行いましょう。この毎日の積み重ねが定着につながります。ALTの先生との授業においても積極的に学習したことをすぐに使うことが大切です。週5時間の英語の授業と毎日の家庭学習（1時間以上）をフル活用して身につけていきましょう。No Pain, No Gain. (努力なくして成功なし) 一緒にがんばりましょう。

年間授業計画表（45分授業）

期	月	学習内容			時数	
前 期	4	Unit 0 My Spring Vacation Unit 1 A Friend in a Sister School	<ul style="list-style-type: none"> 一般動詞の過去形、canの文 疑問詞 be動詞の過去形、過去進行形 look+形容詞 日記 	前学年の復習 Lesson 11 Christmas around the World	<ul style="list-style-type: none"> 未来を表す表現 (be going to~) 	15
	5	Daily Scene 1 Unit 2 A Trip to the U.K.	<ul style="list-style-type: none"> be going to SVOO, SVOC 			
		《 第1回考査 》		《 第1回考査 》		
	6	Daily Scene 2 Unit 3 Career Day Daily Scene 3 Presentation 1	<ul style="list-style-type: none"> ていねいをお願い May I ~? / Could you ~? 不定詞（形容詞的用法、副詞的用法と副詞的用法） メール 将来の夢 	Lesson 12 Wee Willie Winkie Lesson 13 Mansfield - Yesterday and Today	<ul style="list-style-type: none"> 未来を表す表現 (will~) いろいろな助動詞 (will / can / may / must) There is (are) ~の文数や量の多少を表す表現 	30
	7	《 第2回考査 》		《 第2回考査 》		
		Let's Read 1 The Carpenter's Gift	<ul style="list-style-type: none"> 速読（物語、英語劇） 			12
	8	《 サマーチャレンジ 前半 》 [夏季休業中] 《 サマーチャレンジ 後半 》				
	9	Unit 4 Homestay in the United States Daily Scene 4 Unit 5 Universal Design	<ul style="list-style-type: none"> have to~/don't have to~ 助動詞 will/must/must not 電話の会話 May I ~? 接続詞(if / when / because) I think (that)~. 	Lesson 14 Languages in India	<ul style="list-style-type: none"> 比較 better, the best (原級・比較級・最上級) 	18
		Daily Scene 5	<ul style="list-style-type: none"> 道案内 	Lesson 1 14-year-olds around the World	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞表現 have to ~ / Shall we ~ ? Shall I ~ ? など 文構造 (sv/svc/svo) 	18
		《 第3回考査 》		《 第3回考査 》		

後 期	11	Unit 6 <i>Rakugo in English</i> Daily Scene 6 Presentation 2	<ul style="list-style-type: none"> • There is /are～. • 動名詞 • 詩 • 町紹介 	Lesson 2 <i>Takashi's Speech about the Sanshin</i>	<ul style="list-style-type: none"> • 不定詞 (名詞用法, 副詞用法, 形容詞用法) 	18	
	12	《 第4回考査 》		《 第4回考査 》			
	1	[冬季休業中]					
	2	Let's Read 2 <i>Try to Be the Only One</i> Unit 7 <i>The Movie Dolphin Tale</i> Daily Scene 7	<ul style="list-style-type: none"> • 比較級 • 最上級 • as～as・・・ • 買い物 • Shall I ～? 	Lesson 3 <i>Bike Sharing in Hokkaido</i> Lesson 4 <i>The World Favorite Children's Author</i>	<ul style="list-style-type: none"> • 命令文、and / or.... • 接続詞when • 接続詞 if / 理由、譲歩を表す接続詞 • 接続詞 that • 文構造 (SVOO/SVOC) 	30	
	3	《 学年末考査 》		《 学年末考査 》			
		Presentation 3 Let's Read 3 <i>Cooking with the Sun</i>	<ul style="list-style-type: none"> • 私の好きなこと・もの • 速読 (説明文) 	Lesson 5 <i>Washoku --- Japanese Cuisine</i>	<ul style="list-style-type: none"> • 動名詞 • 不定詞と動名詞 	15	
		《 スプリングチャレンジ 》					
		総 時 間 数					156

教 科 名		年間授業時数	学 年
サイエンス		35	2
授 業 形 態	指 導 者 名		
分割授業（1学級を2講座）	橋田千寿 宮木秀樹 奥野晃司 武下晃慎		

目 標	<p>科学が社会生活において果たしている役割に目を向け、実験・観察・数学的活動を通じて、科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに、一人一人が自分の考えについて他者と討論することによって、探求すること、説明をすること、根拠付けをすることなど問題の解決や探求活動に必要なスキルを身に付け、学んだ知識と組み合わせて問題解決的な学習を取り入れることにより、科学的思考力や創造力を養う。</p>
学習のねらい	<p>①論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって、認知能力の促進・加速を図る。 ②グループやクラス全体の議論を通して十分な経験と反省をさせ、批判的思考、複眼的思考、分析的思考操作の方法を身に付ける。 ③各思考操作を各作業を通じて、その都度直接に習得させることを目的としているのではない。2年間の授業を通じて、形式的操作一般の能力の発達を加速・促進させるのがねらいである。</p>
評価の観点	<p>①課題を解決するために実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題解決に当たることができる。 ②形式的思考操作ができる。 ③他者の意見を論理的な思考によって判断し、その意見に対する自分の考えを持つことができる。 ④自分の意見を適切にまとめ、効果的な発表ができる。</p>
先生からアドバイス (授業の受け方、ノート の取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の結論を覚えたりする必要はありません。プリントは友達と討論するためのメモに過ぎませんので、その時間にしっかりと考えて自分の意見を述べるようにしましょう。 ・先生と対話したり、友だちと討議をしたりして考えを深めるという体験をしましょう。 ・グローバルで学習している言語技術の手法を利用して、意見が言えたり、文章が書けたりできるようになりましょう。

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	【反比例性】つりあいを保つ (11)	2	<ul style="list-style-type: none"> 二つの変数の間に増減の逆関係があるものについて調査を行い、関係性を考える。 おもりの重さと支点からの距離を調べ、反比例性を導入する。
	5	【反比例性】電流、長さ、厚さ (12)	2	<ul style="list-style-type: none"> 電流と抵抗の間の反比例性を調べ、反比例の概念を確立する
		【蓋然性】豆のサンプリング (13・14)	2	<ul style="list-style-type: none"> 母集団を代表するような標本集団に必要な標本数を調べ、標本抽出の初歩的な概念を持つ。
		【組み合わせ】選択肢 (15)	2	<ul style="list-style-type: none"> すべての場合の数を上げを行う。
		【変数】相互作用 (16)	2	<ul style="list-style-type: none"> 酵母菌、鉄さびについての実験を通して、二つの「入力変数」が合わさって「結果の変数」が大きくなるような現象について考える。
	6	【蓋然性】コインを回す (17)	2	<ul style="list-style-type: none"> コインの表が連続して出る頻度と試行回数との関係を調べ、確率的現象の振る舞いを知る。
		【蓋然性】紅茶の味見 (18)	2	<ul style="list-style-type: none"> 特殊な能力を持つ人がいると仮定して、5回のうち何回当たればその人の能力を信じることができるかを考える。
		【相関性】わらじ虫の行動 (19)	2	<ul style="list-style-type: none"> 状況の違う4カ所を設定し、わらじ虫がどこに最もよく移動するかを調べ、得られたデータから考察を行う。
	7	【相関性】処理と効果 (20)	2	<ul style="list-style-type: none"> 相関関係が何を意味するかを示す例を提示し、相関関係を理解することは確率を理解することに依存することを体験させる。
		【蓋然性】サンプリング：池の中の魚 (21)	2	<ul style="list-style-type: none"> 標本抽出の数量的検討を比と割合に関係づけて理解する。
【蓋然性】サイコロを投げる (22)		2	<ul style="list-style-type: none"> 確率の最後の活動としてサイコロを用いて確率の概念をまとめる。 	
8				
後期	10	【形式的モデル】物質の状態・溶液・化学変化 (23・24・25)	2	<ul style="list-style-type: none"> 観察したことをモデル化する。
	11	【複合的な変数】圧力・浮かぶ・沈む (26・27)	2	<ul style="list-style-type: none"> 複数の変数が関係して複合的な変数があることを確認し、複合した変数の使い方を理解する。
		【平衡】丘を登り、谷を下る (28)	2	<ul style="list-style-type: none"> 平衡を保つための条件を探る。
		【複合的な変数】ダイバー (29)	2	<ul style="list-style-type: none"> 密度の概念を導入して複合的な変数について再度考察を行う。
	12	【平衡】つりあいを取り戻す (30)	2	<ul style="list-style-type: none"> てんびんの平衡を保つための条件を整理する。
	1	課題研究について	(11)	
	2	オリエンテーション	1	
		文献調査の仕方	3	
		論文を読む	2	
		ゼミを決める	2	
3	テーマを考える	3		
	課題研究発表会参加	2	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究発表会に参加し、質問やディスカッションを行う。 	
		総時間数	35	